



国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

第2484回(本年度第24回)例会 2010.1.19

●例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)

●例会場/東京第一ホテル鶴岡

鶴岡市錦町 2-10 Tel. 0235-24-7611

クラブホームページアドレス <http://www.tsuruokarc.org/>

会長報告

富樫松夫

● 1月13日元会員でおられました皆川光吉さんが1月9日逝去されました。13日の葬儀に参列して参りました。皆川さんは昭和59年入会され、平成6年に退会されております。12日の例会日に皆さんに連絡出来ず申し訳ありませんでした。皆川さんのご冥福をお祈りしたいと思います。

来週26日は華夕美日本海様で寒鱈汁家族例会が開催されます。友好クラブの会津若松南RCから14名、東京東江戸川RCから8名と大勢の方の参加が予定されております。鶴岡クラブでも大勢の会員でおもてなしをしたいと思いますので、参加の程宜しくお願ひ致します。

PPP (Public Private Partnership)

近年、PPP (Public Private Partnership:パブリック・プライベートパートナーシップ) という言葉をしばしば聞くようになってきました。これは、文字どおり、官と民がパートナーを組んで事業を行うという、新しい官民協力の形態であり、次第に地方自治体で採用が広がる動きを見せてています。

PPPは、たとえば水道やガス、交通など、従来地方自治体が公営で行ってきた事業に、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま、設備投資や運営を民間事業者に任せる民間委託などを含む手法を指しています。

では、日本でもすでに多様な事業が行われるようになってきたPFI (Private Finance Initiative: プライベートファイナンス・イニシアチブ、民間資金を活用した社会資本整備) と、どう違うのでしょうか。PFIは、国や地方自治体が基本的な事業計画をつく

り、資金やノウハウを提供する民間事業者を入札などで募る方法を指しています。

これに対して、PPPは、たとえば事業の企画段階から民間事業者が参加するなど、より幅広い範囲を民間に任せる手法です。PPP、PFIは、ともにイギリスで発達してきた官民協力の手法ですが、PFIからスタートし、後にPPPの手法に進化しました。現在では、PFIは、PPPの1つの手法であると位置づけられ、本家のイギリスをはじめ他の国でも、PFIという言葉は次第に使われなくなり、代わりにPPPが使われるようになってきたといわれています。

幹事報告

阿部純次

○ガバナー事務所

ロータリーレート変更 90円/1ドル(2月より)

○日本平ロータリークラブ

台中港区ロータリークラブ統盟式の最終確認書

○米山記念奨学会より佐藤孝子君に感謝状

会員年男スピーチ 「鶴岡より古い大宝寺」

(佐藤組 代表取締役 佐藤 友行君)



私は昭和25年寅年生まれでございます。戦後5年を経過したとはいまだまだ全体に貧しい時代でございましょう。ちょうどその年の6月に朝鮮戦争が勃発致しまして、日本は戦争の前線補給基地として特需景

気に沸くという現象が起きました。戦争で景気が

1月は…

ロータリー理解推進月間

出席
報告

会員数	41名
出席	30名
出席率	76.92%
前々回確定出席率	82.05%

■R 1会長/ジョン・ケニー ■地区ガバナー/佐藤豊彦 ■会長/富樫松夫

■会長エレクト/佐藤孝子 ■副会長/青柳孝治 ■幹事/阿部純次 ■会報委員会/櫻野隆博・石田 雄

事務局:鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL (0235)28-3375 FAX (0235)28-3376

E-mail:tsuruoka08@rid2800.jp

良くなつて経済再生のはずみがつくというのはあまり本当ではない気がしますが、とにかく栄光の東京オリンピック開催の昭和30年代に向かってがんばつてゆく事になります。私が両親と東京のおばを昭和31～2年頃に訪ねた事がありましたが、今の杉並区中野であります。いまでは中央線で都心に出るのが極めて便利でいい処なんですが、当時はまだ一面のバラックで四畳半に7～8名が暮らしているという状況でございまして、横浜にも行きましたがここも又一面バラックの海でいまの横浜では想像も出来ない事ありました。

私の家は大正10年創業の佐藤組という建設業。当時は土木建築請負業、社長は通称請負師という家で育ちました。宝町方面から大宝寺の元村に向つて今は一方通行で入れなくなつてしまつた道路沿いで夕方になると酒田方面より藤島羽黒方面へ抜ける勤め帰りの車が大ラッシュで混雑を極めております。私は小学校は市立朝暘第五小学校に通いましたが、その五小の校歌の中に“大宝寺の名古くとも文化の光あらたなり”という一節があります。それを歌うたび大宝寺は古い処などと子供なりに思つたりしておりました。

当時は宝町の一角にあった校舎でグランドを持たない市立第二中学校と並んで建つておりました。グランドは五小と共に用いていたと思います。いまの五小は切添町に移転しておりますが、小体育館は旧五小の体育館を移築したものです。

大宝寺は離れた処に飛び地がございます。その昔は皆くつついていたのかもしれません、赤川にかかる三川橋を渡つて旧羽黒町と旧藤島町に接したダンプ業の青木建材があるあたりと、鶴岡駅裏の西側、県立中央高等学校の周辺もそうでした。日本国といわれているあたりです。あそこにある秋山鉄工の工場の壁には日の丸とともに“ここは日本国です”と大書されております。酒井忠明様が御存命の時、あの看板を大変誉めておられました。青龍寺川にかかる松の木橋のあたりもそうです。橋のたもとに菅原と斎藤の2軒の花見だんご屋がありますが、いまでは松の木橋というとだんごのブランドで有名になっております。松の木橋は昭和34年に私共の会社でかけた橋ですが、老朽化した為に来年の完成を目指して架け替えを行うところでございます。

さて大宝寺村は古い農家が多く集まつてゐる地域でございます。古い村ですので、農家一戸一戸が屋号で呼ばれております。うえど、ごんろくど、き

しろど、かどじと、にんぜんど、もえど、またねど、きんしちど、ちよいもち、いまでもこのような呼ばれ方をしているようです。農業経営もひと頃よりは厳しいようで、いまでは兼業農家がほとんどでアパート経営、工業団地への土地提供、勤め人など形態も様々となっております。私はいまは前に住んでいた場所より200mほど北側に移転しましたが、そのあたりから羽越線のまだ通っていない明治の初めの道形方面へかけて通称しんちょうと呼ばれておりました。子供なりに「新町」かななどと勝手に思つておりましたが、ずっと後になって新徵組があつたところだと知りました。これは幕末に幕府に江戸市中取締役を命ぜられた莊内藩がかの有名な清河八郎のつくった浪士組の後身で、主に関東地区の浪人達だったという事であります。この新徵組を江戸市中取締りにあたらせていた訳ですが、後にこれが分裂いたしました。清河八郎の方針転換に反発した近藤勇、土方歳三らが、新撰組をつくって京都所司代の庇護下に入ることになります。後の新撰組の活動は皆様の知る通りでございます。明治元年に莊内藩主酒井忠篤に同行して庄内に下りまして、湯田川に移り住む事になります。新徵組は戊辰戦争でも活躍して、湯田川には戦死した隊士の墓地もあります。大宝寺にはこの新徵組を住まわせた屋敷が100戸以上あつたという事ですので、莊内藩の財力がしのばれるところです。新徵組のあつた区域は今でも町わりは元のままで、道路も2m～3mという狭さで冬の除雪等では住民は今も苦労しております。

(次号につづく)

香員会報告

ロータリー財団委員会

昨年6月財団寄付を送金しており、今月末再度送金する予定です。積立にご協力お願い致します。

親睦委員会

マイクアップされた方

本間 厚 西川富美子 嶺岸 禮三 高橋 良士
小林 健郎 石田 裕治

••スマイル

富 横松夫君 佐藤友行君、自分の生まれた「大宝寺」の懐かしいスピーチ有難うございました。
佐藤孝子君 先週例会をお休みしたお詫びと、米山功労者賞を頂きましたので。
真島吉也君 佐藤さんお話の大宝寺は私の子供時代の活動の範囲でした。懐かしくお聞きしました。